セクハラ防止のため、
店長の射精管理をします！
セクハラ店長の射精管理

「ありがとうございました～！」
夫は専業主婦でいてくれて良いと言ってくれましたが
少しでも家計の足しになればと思い
コンビニでバイトを始めました。
今までアルバイトの経験もなかったので不安でしたが
皆さん良くしてくれるので仕事にも大分慣れました。
第1話　セクハラ防止のための射精管理

ただ一点、店長のセクハラを除いて…
「育代さ～ん、今ちょっといいかな？」
「品出しの途中なんですけど…」
「そんなの適当でいいよ！」
「今お客さんいないからいつものお願い出来る？」
「またですか…　しょうがないですね…」
ムニ
ムニ

バイトを始めた日からセクハラに悩まされていましたが
射精させてあげる事で大人しくなるのに気付きました。
これ以上セクハラが激しくなる前に…
と思っていたんですが
やっぱり夫以外のおチンチンに触れるのは抵抗があります…

「最初はぎこちなかったけど手コキ上手くなったね～」
「上手くなりたくなんかなかったですけどね…」
「何で？　旦那さんも喜ぶでしょ？」
「夫はこんな事してくれなんて言いません！」
シコ
シコ

「あっ！」
ビュルルル

「射精する時は言ってくださいよ…
汚れちゃったじゃないですか！」
「育代さんの手コキが気持ち良いからつい…
育代さんのお蔭で仕事に精を出せるよ」
「仕事にだけ出してくれればいいんですけどね…」

こんな感じで1時間に1回くらい
店長を射精させてあげています。
胸やお尻は触られますがキスしたり
パンツの中に手を入れたりはしなく
大分マシです。
なるので

星空家
「大丈夫？
慣れない仕事で疲れてない？」
「うぅん、大丈夫！
博司さんも頑張ってるんだから
私も頑張らなくちゃ！」

洗っても洗っても
店長のおチンチンの匂いが消えない…
博司さんにセクハラの事を言うと心配かけるので
内緒にしていますがバイトのたびに
店長のおチンチンをシゴいてる事は口が裂けても言えません…

「もぉ～、失礼しちゃう！」
「どうしたんですか？」
「星空さんも店長に言ってよ！事務所すっごくザーメン臭いでしょ！皆が使う場所でオナニーなんてセクハラよセクハラ！」
「そ、そうですね！…」

第2話　射精管理、クレームにつき

「ふぅ…　田中さんも大げさだよね～。
そんなに臭わないでしょ」
「いえ、まぁ、確かに臭いかも…
手に匂いが付いてるせいかと思ってましたけど…
ティッシュも何重にもして袋を二重にしても
駄目なら何しても駄目ですよ。
ここでするのは止めましょうよ」

「そんな！
仕事の合間に育代さんに
抜いて貰うのが生き甲斐だったのに！」
「人を勝手に生き甲斐にしないでください…
夫がいる身なんですけど」
「うぉおおん！」
シコ
シコ

「しょうがないじゃないですか…
店長のザーメンすっごく臭いんですもん…」
「臭い… 臭いかぁ… …！」
「だったら育代さんが
僕のザーメン飲めばいいんじゃない？」
「は？ 嫌ですけど」
シコ
シコ

「飲んでよ！
ザーメン飲むくらい普通でしょ！」
「知らないですよ！
夫のだって飲んだ事ありません！」
「そうなの？　へへへっ…
ザーメン飲むくらい皆やってるよ？
普通普通！　だから僕のザーメン飲んで！」
シコ
シコ

「はぁ……　分かりました…
でも飲むだけですからね！
店長のおチンチンに口なんか
付けたくないんですからね！」
「オッケーオッケー！
出る時ちょっと舐めるだけだから」
「舐めませんから！」
ジュ
ジュ

「出るよ！　はい咥えて！」
「舐めませんって！」
「そのままじゃ飛び散っちゃうよ！
出ちゃう出ちゃう！」
「ま、待って…！」

「……」
ぺろ

「出ないじゃないですか！」
「咥えただけじゃぁ～な～。
ちゃんと吸ってくれないと出るもんも出ないよぉ～」
「……」

臭い臭い臭い！
夫のおチンチンも舐めた事ないのに！
磯臭いような変な匂いで頭がおかしくなりそう…！
ん
ん
ちゅぱ
れろ

!
ビュッ
ビュッ

「だ、出すなら出すって……！」
「さっきから言ってたじゃない。
ほら先っぽにまだザーメン付いてるよ。全部綺麗に舐めて」
「……」

うぅ…
おチンチンもザーメンも臭いし変な味…
ちゅっ
ちゅぱ

「ただいま育代」
「おかえりなさい博司さん」
「ん？　何か臭くない？」
「あっ、あぁ…
お昼にオクラとか納豆とか臭くて
ネバネバしたの食べたから…！」
「精が付きそうだね」
「まだ仕事になれないから
頑張んなくちゃってあははは」

事務所の異臭問題が収まったら
今度は私の口臭問題が…
仕事中もひょっとして臭かった？

「お邪魔します…」
「いらっしゃい育代さん！　ま、ま、ま！　入って入って！」

店の中では落ち着いて射精出来ないと言うので
今日は出勤前にコンビニの上階に住んでる
店長の自宅で射精してもらう事になりました。

第3話　店外射精管理

「夜勤明けで僕も育代さんと一緒の出勤だからついでにね」
「はぁ…」
「じゃあ早速抜いてくれる？」
「えぇ…　まぁ…　そのために来たんですけど…
あまり納得出来ないような…」

セクハラを防ぐためだけど
店長の自宅でこんな事するのは良くない気がする…

「せっかくだから育代さんも脱いでみようか！」
「嫌ですよ。エッチなお店の女と勘違いしてません？」
「僕は別に構わないんだけどさぁ、
育代さんがずぅ～と僕のチンポしゃぶってるのも
申し訳ないなぁと思って…
出来るだけ早くイッちゃった方が育代さんも良いでしょ？」
ちゅぱ
れろれろ

「そりゃまぁ…　そうですけど…
じゃあちょっとだけですよ…」
「よぉっしゃぁああ！
ついでにパイズリしてみてよ！　パイズリ！
育代さんのそのおっきなおっぱいで！」
「…パイズリって何ですか？」
「パイズリってのは…　このおっぱいで～…」

「チンポをシゴく事！」
「ちょっ！　人のおっぱいで
勝手におチンチン挟まないでください！」

「まず邪魔なブラは外しちゃおう！」
「ちょっ、ちょっと！」
「恥ずかしがる事はないよ！
とっても綺麗なチ・ク・ビ」
「夫以外の男の人に見せたくないんですよ…！」
「育代さんだって
僕のチンチン見てるんだからお互い様でしょ。」
「……」
…早く終わってくれるならいいか。

15分経過
「って～…！」

タポ

タポ

「全然イかないじゃないですか！
おっぱい痛くなってきたんですけど！」
「いや～上手くパイズリ出来ないのを
僕のせいにされてもな～」
タポ
タポ

「そんな事言われても、
パイズリなんて今までした事なかったですし
いきなりやれって言われて
上手く出来る訳ないじゃないですか…」
タポ
タポ

「大丈夫！
僕の言う事聞いてれば育代さんならら
絶対パイズリも上手くなるよ！」
「パイズリが上手くなりたい訳じゃ
ないんですけどね…」
タポ
タポ

「じゃあローションかけてみよう」
「冷たっ！」
「これで初心者の育代さんでも
パイズリでイかせられるようになるよ」

うわっ　ヌルヌル滑ってさっきと全然違う…！
すごく…　おチンチンをシゴきやすい…！
タポ
タポ

「いいよいいよ…！
まさに水を得た魚の如くッ！
人妻おっぱいにイかされちゃうッッッ！」
タポ
タポ

ビュルルルルッ

「ふぅ…　とっても良かったよ」
「はぁ…　そうですか…」
嫌だけど射精させる事が出来て
ちょっと嬉しかったり…

博司さんにもパイズリしてあげたいな。
「ねぇ、博司さん」
「ん？」
「パイ…」

「パイズリしてあげようか？」
「パイズリって何？」
「おっぱいでおチンチンシゴく事だよ」
「どうした育代…　気でも触れたか？」

「パイ…　パ…　パイでも焼いたら博司さん食べたい？」
「うん食べたい」
「今度ミートパイ作ってあげるね…」
夫に言えない秘密がまたひとつ増えた。

店長のセクハラ防止レパートリーに
パイズリが追加されて以来、
肌と肌の接触が増えて危機感を覚えています。

第4話　挿入未遂の未遂

「素股して欲しいなぁ～」
「スマタって何ですか…？
嫌な予感しかしませんけど」
「お股でチンチンシゴく事だよ」
「絶対嫌です！
そもそも私がこういう事するようになったのは
店長がセクハラしてくるのを防ぐためなんですよ！
お股におチンチンをくっ付ける方が
よっぽど酷いじゃないですか！」
タポ
タポ

「挿入れる訳じゃないよ～。
くっ付けるだけなんだから手マンされちゃうより健全だよ？」
「そもそも変な事しないでくださいよ…」
「じゃあスマタしてくれる？」
「…間違ってもセックスはしないんですよね？」
「大丈夫大丈夫」
「絶対ですよ？
セックスしたらレイプされたって裁判しますからね！」
「大丈夫大丈夫」
タポ
タポ

「育代さんの生マンコ」
「…見ないでください。絶対にセックスはなしですよ！　絶対ですからね！」
「大丈夫大丈夫」

あっ、これ…！
思ったよりヤバい…！
はぁ
はぁ
ズチュ
ズチュ
グチュ

「店長……！
やっぱりスマタはなしです！　止めてください！」
「えぇ～、何で？」
「おマンコにおチンチンを押し付けるなんて
やっぱり駄目です！
ほとんどセックスじゃないですか！」
「えぇ～、全然違うって～」
スチュ
ズチュ
ヴチュ

ぢゅぷ
「ぁ♡……ー」

「は、入っちゃってるじゃないですか！」
「ごっ、ごめ…っ　抜いて抜いて！　あっ！」

「は、入っちゃってるじゃないですか！」
「ごっ、ごめ…っ　抜いて抜いて！　あっ！」

「ウソっ!? なっ中に…!?」
「ご、ごめん… 気持ち良くてつい…」
「ついじゃないですよ! いいからどいて!」
「う、うん…」
ドゥルルル
ドゥルルル

「店長を信じた私が馬鹿でした！
セックスして中出しされるなんて
これもう完全に浮気じゃないですか！」

「これは事故なんだ！　浮気じゃないよ！
わざとじゃないって証明するチャンスをくれないか!?
僕は一切動かないからスマタでイッたらもう何も言わない！
でもスマタの途中でチンポがおマンコに
入っちゃうような事があれば事故だと認めてくれ！」

「…バイト辞めても何も言わないんですよね？
写真で脅すとかなしですよ？」
「僕を何だと思ってるんだい。男に二言はない！」

「じゃあ…　これで最後ですね…！」
ネトッ

「そんな浅くちゃイかないよ！
もっとネッチョリくっ付けないと！」
「あんまりくっ付けると入っちゃうじゃないですか！」
「でもくっ付けないとイかないよ！
全然イけないね！
いつまでも僕のチンポの上で
踊ってくれるならそれでいいけどね！」
「うぅ～～！」

これで最後なんだから…
絶対に店長をイかせて
この関係を終わらせる…！
ズボッ
ヴィィン
アォォ

「ぁ♡……ー」
ぐぐぐ

ボイ
スイ
「入っちゃったね！
チンポ入っちゃったね!?」
「わ、分かりました！
分かりましたから手をどかして……！」
「ひどい事言われてすごく傷付いたんだよ！」
「ご、ごめんなさい…
あの！　この状態はすごくまずいんで……！
もうバイト辞めるなんて言いませんから!!」

ビュ…!
ビュルルッ…!
「あっ、あっ…! ちょっ、ちょっと…!」

「だからって中出しして良い訳ないでしょう！」
「今のは育代さんから挿入れてきたからセーフだよね」
「うぅぅ…！」

簡単に妊娠しないとは思うけど…
「あ、あの…　博司さん。
そろそろ二人目が欲しいかな～、なんて…
今日ゴムなしでする？」

「あ、ダメだよ。
ちゃんと計画的に赤ちゃん作らなきゃ。
貯金が貯まるまでは避妊はしっかりしないと」
「そ、そうよね～…」
今赤ちゃん出来たら店長の赤ちゃん決定ね…

「店長！　事故っちゃうのはなしですよ！
絶対わざとでしょ！」
「わざとじゃないって～」
「罰としてスマタ終わりです！」
「あぁん」

ズブッ

第5話　中出し射精管理

「でも僕が育代さんとセックスしたいから
ついつい事故っちゃうってのもあると思うんだよねぇ～」
「セックスだけはダメですってば！
浮気になるじゃないですか」
れろ
れろれろ

「そう！浮気にならないセックスなら大丈夫なんだよ！」
「何言ってるんですか…」
「あ、射精るよ」
「はい」
れろ
れろ
れろ

ビュッ
ビュッ

「妻の浮気とは夫以外の子を妊娠する事…！
つまり安全日にするセックスなら浮気にならない！
セックスさせてくれるなら
無理にセックスしようなんてしないから
事故って妊娠する事もない！」
「……ゴクゴク」
ちゅぱ
ちゅぱ

数日後
なんて言ってたけど…
セックスするのが良い訳ないじゃない…
でもまた無理矢理中出しされて妊娠したら最悪だし…

「今日だよね!? セックスしていいんだよね!?」
「…その代わりダメな日にセックスするのは絶対ダメですからね」
「うんうん！ 分かってるよ」

妊娠しないようにするためだから…
浮気じゃないから…
「ゴ、ゴム付けてくださいよ！」
「安全日なんでしょ？
だったら中出しでも大丈夫だよ」
「そ、そうかもしれないですけど…」

博司さんはきちんとゴム付けて綺麗にセックスしてくれるのに…
店長の臭いおチンチンの匂いがおマンコに付いちゃう…！
ズプッ

「僕のチンポが育代さんのおマンコに入っちゃったねぇ……！」
「言われなくても分かりますよ……」
「すっごく感動しちゃってさ！
どう？　旦那さんのチンポと違う感じする？」
ズイ
ズプ

「えぇ、まぁ…
店長のおチンチンの方が博司さんのよりおっきい…」
「それって旦那さんのチンポより気持ち良いって事？
やった！」
「ち、違いますよ！
違いますけど…　変な感じです…」
スプ
ボイ

「お子さん産まれてからいつもゴム付けてるんだよね？
久しぶりの生のチンポはどう？」
「変な事言わないでください…！」
「いや～、嬉しいなぁ～！
子宮にいっぱい僕のザーメン飲ませてあげる！」
ズイ
ズプ

ビュッ
ビュルルッ
「もう！　変な事言わないで…　あぁっ！」

はぁ
はぁ
「気持ち良かったよ育代さん」
「そうですか…」

はぁ
はぁ
「どう？　子宮に射精されるのって気持ち良い？」
「そ、そんなの分かんないですよ！」
「今日はたくさん中出ししてあげるから
その内分かるようになるよ」
「もちろん」
「もしかして仕事中もするんですか…？」
「ほ、ほどほどにしてくださいよ…」

「これ何も履いてないってバレませんかね…」
「大丈夫大丈夫！
まさかノーパンだとは思わないでしょ。
それより今お客いないからいいかな？」
「さっきしたばかりじゃないですか…」
「今日は記念すべき中出し記念日だからね！
たくさん中出しするよ！」
「はぁ…　それじゃ奥に…」

「ちょっと…！　何…！
お客さまを来ないようにするんですか？」
「大丈夫大丈夫！
外からは見えないし近づいて来るヤツがいたらすぐ分かるから！」

「急に来たら困りますって…！
まともに接客出来ませんよ…！」
「その時は僕が接客するから！
育代さんの今日のお仕事は僕とのセックス！」
「そんなの仕事じゃないですよう…！んんっ！」
あんっ
あっ
パン
パン

「ゆ～、ゆ～、ゆ～……」
ぎゅぎゅぎゅ

「はぁはぁ…　そっぽ男しかいないのに…
まだ誰かに見られてるような気がする…」
ぎゅ
ぎゅ

「ティッシュで詰めておこう。
帰る頃には育代さんのおマンコが
僕のザーメンでタプタプになってるんだろうなぁ…
ふふふ」
「…やっぱり中出しさせるんじゃなかったかも」

はぁ…　今日は散々だった…
まだ店長のおチンチンが挿入ってるみたい…
「育代…　今日はどうかな？」
「博司さん　あっ、ご、ごめんなさい…
今日は体調がちょっと悪くて…」
「そっか…　仕方ないね」

店長のザーメンがおマンコから
出続けてるせいでエッチ出来ない…
どんだけ中出ししたのよ…

「安全日以外はゴム付けてくださいって！」
「ちょっとだけだから！
ちょっと生マンコの感触を味わったらゴム付けるから！」
パパ
パパ
第6話　射精管理の日常

「って言うか安全日以外は
セックスしないんじゃなかったんですかー!?」
「安全日以外は避妊するって約束でしょ？」
「避妊してないじゃないですかー！」
「するする！」

「ほら避妊したー！」
あんっ
ビュルッ
ビュルル

はぁ
はぁ
「外出しする事を避妊するって言わないですからね！」
「でもおマンコの中に射精さなかったからセーフ！」
「もう！」

店長に任せるって体はアレなんだから私がしっかりしなきゃ…
「疲れたーー」
「まだ一時間も経ってないってのにだぜ…」

「今度は私が上になります！
ゴムも付けますからね」
「え～…　10秒だけでいいから！
ちょっとだけ！」
「しません！
店長10秒でもイく時は
イくじゃないですか！」

「人を早漏みたいに…
じゃあ動かないから！
本当に挿入れるだけ！」
「…挿入れるだけですよ？」

「キスも」
「はいはい…」
ズプッ

「あ、イキそ…」
「え!?」
はっ
はっ
ズプ
ズプ

「あ…　だめ…」
ぶしゅ！
ぶしゅぶしゅ！

「動かないでも
イっちゃうじゃないですか！」
「え～、育代さんが動いてたからだよぉ。
気付かなかった？」
「動いてません！」

「お疲れさまでした～」
「それじゃ夜番でまた来るから」
「今度はちゃんとゴム付けてくださいよ」
「分かってるって」
「…だったら良いですけど」

「…ッ！
ゴム付けてないでしょ!?」
「あ、分かるぅ？」
「分かりますよ！
いい加減にしてください！」
ズプゥ

「まぁまぁ。
いつもちゃんと外に出してるでしょ？」
「外出しじゃなくて
ゴムを付けてって何度も…
それにさっき思いっ切り中で
イきそうだったじゃないですか！」
「あれは育代さんが腰振ってたから
中に出して欲しいのかと思って」
バーン
パン
パン

「違いますから！
私が人妻だって事忘れないでくださいよ！」
「分かってるって。
人妻だからそろそろ
赤ちゃん欲しいのかなぁって…」
「赤ちゃん欲しくなっても
店長に頼みませんから！」
パン
パン
パン

「育代さんのおマンコに生で触れたチンポとザーメンは僕が一番多いでしょ？」
「そうですけど…！不本意ながらそうですけど！」
「だったら僕にも育代さんを孕ませる権利があるんじゃないかな？」
「いや、ないですから！」
バーン
バーン

「…うんっ…　俺の母さんって…」
「それ以外の母さん想像しにくいんですよ
だってあんなにもれなく母さんが母さんで安心
ぺろ
ぺろ
ぺろ

ぴゅるるる

「自分の奥さん作って
奥さんにしてあげてください！」
「育代さんになって欲しい」
「先約があるので。
あ、ザーメン付いたおチンチン
挿入れないでくださいよ！
舐めますから」
はあ
はあ

「しばらく大変そうだったけど大分落ち着いたみたいだね」
「うん、大分慣れた」
慣れちゃいけないと思うんだけど…

完